

金魚ちょうちん“里帰り”

柳井・弘前市民交流、金魚ねふたと共演も



金魚ちょうちんをPRする柳井と弘前の関係者たち
＝2日、青森県弘前市

幕末に青森県弘前市の金魚ねふたが北前船で柳井市に伝わって金魚ちょうちんとして発展したことを縁に、両市民同士が交流を深めている。柳井市白壁の町並みを守る会（佐川有信会長）の会員ら有志11人が1日から7日まであった弘前ねふたまつりに合わせて弘前入りし、講演会や展示などで金魚ちょうちんを紹介するなどして今後の交流人

副業人材活用法を紹介

山口でセミナー 中小6社の経営者参加

兼業・副業人材の活用事例などを紹介するセミナーが7日、山口市小郡黄金町の山口グランドホテルで実施された。経営者が参加した。都市部で活躍する人を地方の中小企業で副業人材として活用し事業拡大につな



金魚ちょうちんを手にねふた運行に参加した
＝3日夜、青森県弘前市

弘前文化財保存技術協会（今井三夫理事長）の企画で1～3日、弘前市のNHK弘前支局ギャラリーで金魚ちょうちん約100個を飾り、金魚ねふたと共演し、ルーツの津軽錦も展示した。

2月に実施した守る会の創立40周年記念の講演会を飾り、金魚ねふたと共演し、ルーツの津軽錦も展示した。

で、今井理事長を講師に招いたことがきっかけで実現した。会期中は約500人が訪れ、地元の新聞やテレビに取り上げられた。今井理事長（71）は「弘前市民に柳井のことを知ってもらおう当初の目的は達成できた」と手応えを語った。

3日夜には今井さんらが主宰する仲町子どもねふた愛好会のねふた運行に参加。「ヤード」の掛け声とともに金魚ちょうちんを手に練り歩き、「かわいね」などと温かい拍手で迎え入れられた。

沿道の観客に金魚ちょうちんのチラシを配った柳井市職員の高杉政章さん（35）は「地域の皆さんが創り上げる祭で、応援の声をたくさん頂いて感動した」と反響に驚く。

13日の柳井金魚ちょうちん祭りに合わせ、柳井の会場でも金魚ねふたを飾り付ける。2021年の第30回の節目に向けてさらに交流を深めていく考えだ。守る会の木阪泰之さん（56）は「弘前の皆さんには金魚ちょうちんを家族、兄弟と想ってもらえるように今後も取り組んでいきたい」と意気込む。



松村 瞳

里帰り出産はしないと決めた私にとって、子育ては想像以上大変でした。ささいなことでも我慢せざるを得ない日々の連続だったからです。

第2子も授かり、母のありがたさや子育ての幸せをかみしめる余裕が生まれ始めた2017年。ある福祉法人の理事長から連絡が。「事業所でモノ作りをやりたいので、数

悩みました。何をすればいいのかイメージがわかない部分も多く、悩んだまま施設見学を重ね、構想を練る日々が続きました。

ああ、運命だ。私がこの施設に呼ばれたのは、12年前に東京でこのようになったあの織が、念願のさをり織工房を後押ししてくれました。しかも今度はメンバーの保護者を指導者として迎えるスタイル。メンバーとスタッフという双方向の視点ではなく、家族という視点も織りなされたすてきなコラボ商品ストーリーの始まりです。

歩さんとの出会い

そんな時、すてきな感性を持つ1人の女性「あゆみちゃん」とそのお母さんに出会います。自閉症の傾向が強い彼女はなかなか仕事を手につかず、本人も家族も悪戦苦闘していました。ふと、お母さんの持ち物に目をやると、数

部	540	756	371	1235
宇	351	486	540	584
市	508	572	572	572
	1677	3599	540	540
	2160	432	2160	2160

小中高生が心身の鍛錬

県青少年武道錬成大会が7日、山口市の維新百年記念公園で始まった。9日までの日程で、小中高生約170人が柔道と剣道、弓道の技術を学ぶ。

武道を通じて心身の鍛錬と競技力の向上を図ろうと、日本武道館や県施設管理財団などが1984年から開き36回目。日本武道館から派遣された講師が指導する。



参加者に柔道の技の掛け方を教える渡部成也6段（中央）＝7日、山口市

「7日の水産市況」下関は水揚げ

高値	安値	部	540	756	371	1235
山	1235	371	756	371	1235	1235
市	584	540	486	540	584	584
	572	572	572	572	572	572
	1677	3599	540	540	540	540
	2160	432	2160	2160	2160	2160